

小網代湾でマダイ稚魚1000匹放流

海洋教育の一環

岬陽向小学生100人 名剣崎

三浦市教育委員会はこのほど海洋教育の一環に市内の小学生を対象にマダイ稚魚を放流した。一般社団法人みうら学・海洋教育研究所とNPO法人小網代パール海育隊とタイアップしたもので、岬陽小学校5年生、名向小学校3年生、剣崎小学校3年生合わせて約100人が参加した。放流されたのは体長7〜8センチの稚魚約1000匹。

放流会場になった小網代湾の船揚げ場には長さ約7メートルの木製滑り台が用意され、小学生は滑り台の上部から

バケツに入った稚魚を次々と放流した。バケツから直接海に放流すると稚魚が傷つきやすいため、特製の滑り台を用意し、海水と一緒に流すことで傷つきにくくなるという。児童たちはバケツに4〜5匹の稚魚を入れてもらい、1人3〜4回放流した。

放流に先立ち、神奈川県栽培漁業協会の今井専務理事が海草のアマモが海の中でどんな役割を果たしているのかなどについて出前授業を行った。同専務によると小網代湾内に生育するア

マモは年々減少しているという。マダイ稚魚の放流は岬陽小学校が初めてで、名向小学校は昨年に次いで2回目。また、剣崎小学校は以前、地元の釣船関係者が児童を招待する形で行っていたという。

放流の後、児童たちは海洋教育の一環に行われているアコヤ貝の個体数を確認したり、成長の過程を観察した。放流体験は16日三崎小学校3年生を対象に予定されており、児童は滑り台をつかって稚魚を放流した後、船に乗ってマダイのイ

